

Dループ(タイドロープ)の作り方とメリット

Dループ(タイドロープ)は、コンパウンドボウのSTRINGやノックに負荷をかけない理想的なノッキングポイントです。

STRINGの角度が鋭角に近くなる軸間距離が短いモデルでも、ループの使用によりノックにかかる負荷が大幅に減少するため発射時のシャフトの曲げ率が小さくできるため効率が良くなります。

Dループの材料として、芯入りの2mm前後の径のナイロン系ロープ、アルミやプラスチック成型したハード・ソリッド系のものがありますが、最近のレットオフ率の高いコンパウンドボウには、柔軟性のあるロープタイプのもがお勧めです。

ハード・ソリッドタイプのもは丈夫なのですが、ねじれが発生しやすくSTRINGを振じりやすいためあまりお勧めしません。

人差し指トリガータイプのリリーサーを使用するアーチャーには、いまだにDループを介さず直接リリーサーのジョウ(顎)をSTRINGに取りかけるケースが多いのですが、現在主流のレットオフが

大きいモデルではSTRINGの荒れが大きくなりやすく、アローを荒らしたり震動が大きくなります。

アンカーリングポイントやドロレングスの関係などもあり使いにくくなると思いますが、よほどきれいにSTRINGに負荷をかけずシュートできる自信がないかぎり、Dループを使用したほうが有利だと思います。

さて、ここでは芯入りナイロン系ロープを材料としたDループの作り方を簡単に説明します。



準備するものは、芯入りナイロン系ロープ約5インチ(好みで前後します)とライター(100円ライターでも良いのですが長時間使用していると熱くなり扱いにくいので「着火マン」のように長い柄がある物をお勧めします)

まず、ロープの末端を熱処理します。

ロープの結び目がすべらないように両端にボール状のこぶを作ります。

右図はハサミでカットしたままの断面なのですが、そのままでは熱処理しても末端がうまくボール状になりません。



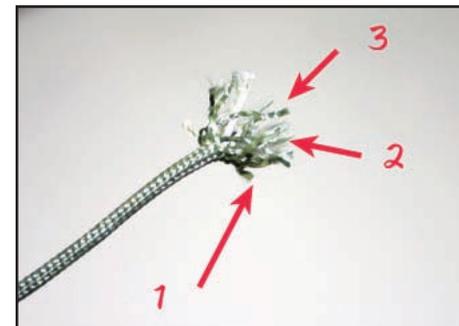
末端をきれいなボール(またはマッシュルーム状)にするには次のような手順が必要です。

まず、左図のように指先や爪楊枝の先、ピンセットの先などで、彼岸花(曼珠沙華)のような形になるまでほぐします。



次に、ライターを使って末端の融かし込み作業を開始するのですが、一遍に融かそうとするときれいに丸くならないばかりでなく強度も不足してしまいます。

きれいに確実に仕上げるには、図示した順番にライターの炎を当ててください。





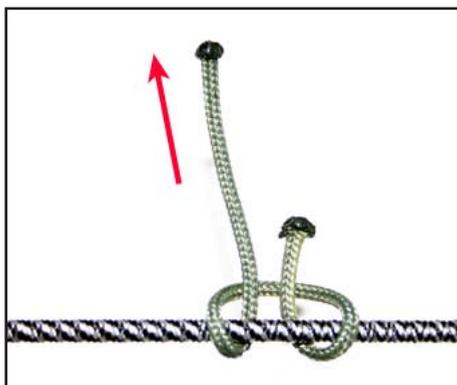
ライターの炎は先ではなく、写真のように中頃を当てるようにしないとロープが燃え上がってしまいます。燃やすと早く融けるのですが、繊維が炭化してしまい強度が弱くなり、すっぽ抜けの原因になります。ゆっくり遠火で溶かしてください。

右図のようにほぼ「マッシュルーム」形状になればOKです。

だめ押しで、3の部分にもう一回軽く炎を当ててやってください。

形があまりうまくできなかった場合でも、冷えて固まる前に頭部をちょっと押さえてやると整形できます。

両端を同様に融解して完成です。

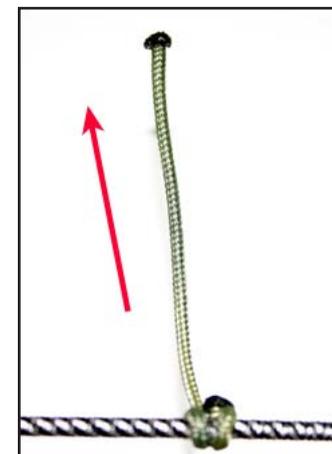


今度はストリングに取り付けます。

写真のような格好にロープをストリングに巻きつけます。

片一方の末端を矢印の方向に引っ張って反対側の末端を軽く締めこみます。

ノッキングポイントの位置まで結び目を移動したら次の段階に進みます。





残った末端を左図のように巻きつけ、矢印の方向に抜き通します。

Dループプライヤーがあれば、利用してループを最後の締め付けをします。

プライヤーがなければ、ループ部分に千枚通しの柄などを通してループをしっかり確実に締めこみます。



この締めこみが甘いと、ドローイング中にループエンドがほどけるため、暴発し事故につながります。

確実に締めつけてください。



これが完成図です。

写真ではループのストッパーをリバース(逆転)にしていますが、下図のように同方向でもかまいません。

経験的にはリバースの方がピープの回りなどのコントロールがしやすくなるようです。

写真では、ノックセットを装着していませんがそれでも構いません。





ただし、セットアップ時にハンドルを振り上げるようなドロ잉をするアーチャーの場合にはDループがずれ込む(ほとんどの場合上にずれる)ことがありますので自信がなければ、ノックセットと組み合わせてください。

私の場合には、ノッキングポイントの計測をノックのボトムエンドで行うので下側にのみノックセットを装着しています。

前述のような振り上げドロウが強いアーチャーの場合には、上側も下にずれノックにストレスを与えてしまい、レストダウンすることがあります。

その場合には、上下にノックセットを装着することをお勧めします。

間隔があまりせまいと「筈こぼれ」の原因になりますので適度の間隔は必要です。

＊当説明書の内容の引用や頒布は任意で行っていただいても構いませんが、著作権は放棄しておりませんので商用的流用等は固くお断りいたします。

CoatlHead

2016.1.7

www.coatl-head.com/
www.facebook.com/CoatlHead/